

(1500円)

実用新案登録願(1)

昭和49年 4月 19日

特許庁長官 斎藤 英雄 殿

1. 考案の名称 ヒヨウ ダン ノツ 美粧断熱容器

2. 考案者

住所 東京都ヒノ シバノ トヨ日野市東豊田3-22-13

氏名 オホ リ マサ ヒロ 大里 正彦

3. 実用新案登録出願人

郵便番号

110-□□

住所 東京都ハイ トウ ク ハイ トウ台東区台東1丁目5番1号

電話(833)6478

名称 (319) ツツ バン イン サツ凸版印刷株式会社

代表者 サツ ムラ カ 澤村 嘉一

4. 添附書類の目録

(1) 明細書

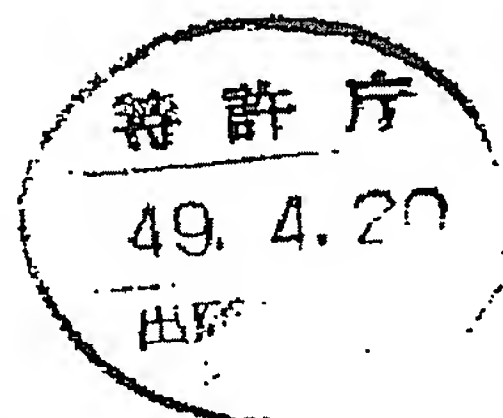
1 通

(2) 図面

1 通

(3) 願書副本

1 通



力 式
密 査

49 044195

明 細 書

1 考案の名称

美粧断熱容器

2 実用新案登録請求の範囲

紙カップ状の容器本体の口縁部の下部に、印刷図柄等を施した紙管を装着し、該紙管の下端辺に通気孔を有する底板を装着してなる二重壁の紙製美粧断熱容器。

3 考案の詳細な説明

本考案は断熱容器に関するものであり、特に純然たる紙を材料としながら、極めて優れた断熱性を付与し、加えて外觀上極めて美麗な容器としたものに関する。

本考案の美粧断熱容器は、紙カップの口縁部の下部に、印刷図柄等を施した紙管を装着し、該紙管の下端辺に、通気孔を有する底板を装着したものである。以下に一実施例を示す図面に基いて本考案の容器を詳細に説明する。

第1図は本考案の容器の断面図であり、図にお

いて、紙カップ状の容器本体(1)は、その内面を樹脂等でコートされ、その口縁部が周回して周曲部(2)を形成している。該周曲部(2)の下部に、すなわち容器本体(1)の側壁と周曲部(2)との間にあたる部所に、紙管(3)の上端辺をあてがい、該紙管(3)を容器本体(1)に装着する。装着は、機械的な紙の弾性変形によつても、かなり強固なものであるが、接着剤等を用いて、装着部をさらに強化するのが良い。該紙管(3)の側壁は所望の印刷図柄等が施されて装飾されているものである。

紙管(3)の下端辺には、通気孔(5)を有する底板(4)が接着されている。さらにつけ加えれば、容器本体(1)には蓋(6)が、口縁部に接着されて一体となつている。このような場合、容器本体(1)には内容物がすでに収納されている。さらに、熱収縮性フィルム(7)により、容器は被覆される。被覆は容器全体を被覆しても良く、また図の実施例に示すように容器の側部と容器を構成する紙材料の接合部(口縁部および底部の一部)にあたるところを被覆しても良い。

第2図は、本考案の容器を示す斜視図であり、図において、蓋(6)にはつまみ(8)を有し、該つまみ(8)により開蓋することを示す。紙管(3)には美麗なる印刷図柄(9)が施され、通常の場合、印刷図柄(9)のほか、内容物を表示する字句等も印刷されるものである。

本考案の美粧断熱容器は以上のようなものであるから、紙カップと紙管との間に形成される間隙により、優れた断熱保温性を有する。その構造は紙を材料としながら、気密性をも満足させたもので、熱湯等を容器本体に注ぎ入れた際に、二重壁に囲まれた間隙内で膨張した空気は底板に設けられた通気孔により排気される。したがって、容器の構造を傷めたり変形させたりすることがない。紙管に所望の印刷を施せることから、また外觀上一見したところは筒状の単層容器に見えるという簡潔な形状から、極めて美粧な容器である。さらに外面を熱収縮フィルムで被覆すれば、汚染されることなく極めて衛生的である。

本考案の美粧断熱容器は、紙を材料としている

ことから、使用後の排棄処分にも、石油系材料のような、排棄物公害が生じる恐れがなく、大量生産に適する。用途として、熱湯等を注ぎ入れて可食状態とする即席食品の容器として、あるいは従来、金属容器やプラスチック容器に収納されていた食品を収納する紙製容器として、多方面の用途があり、実用上極めて優れたものである。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案の容器の一実施例を示す断面図であり、第2図は本考案の容器の一実施例を示す斜視図である。

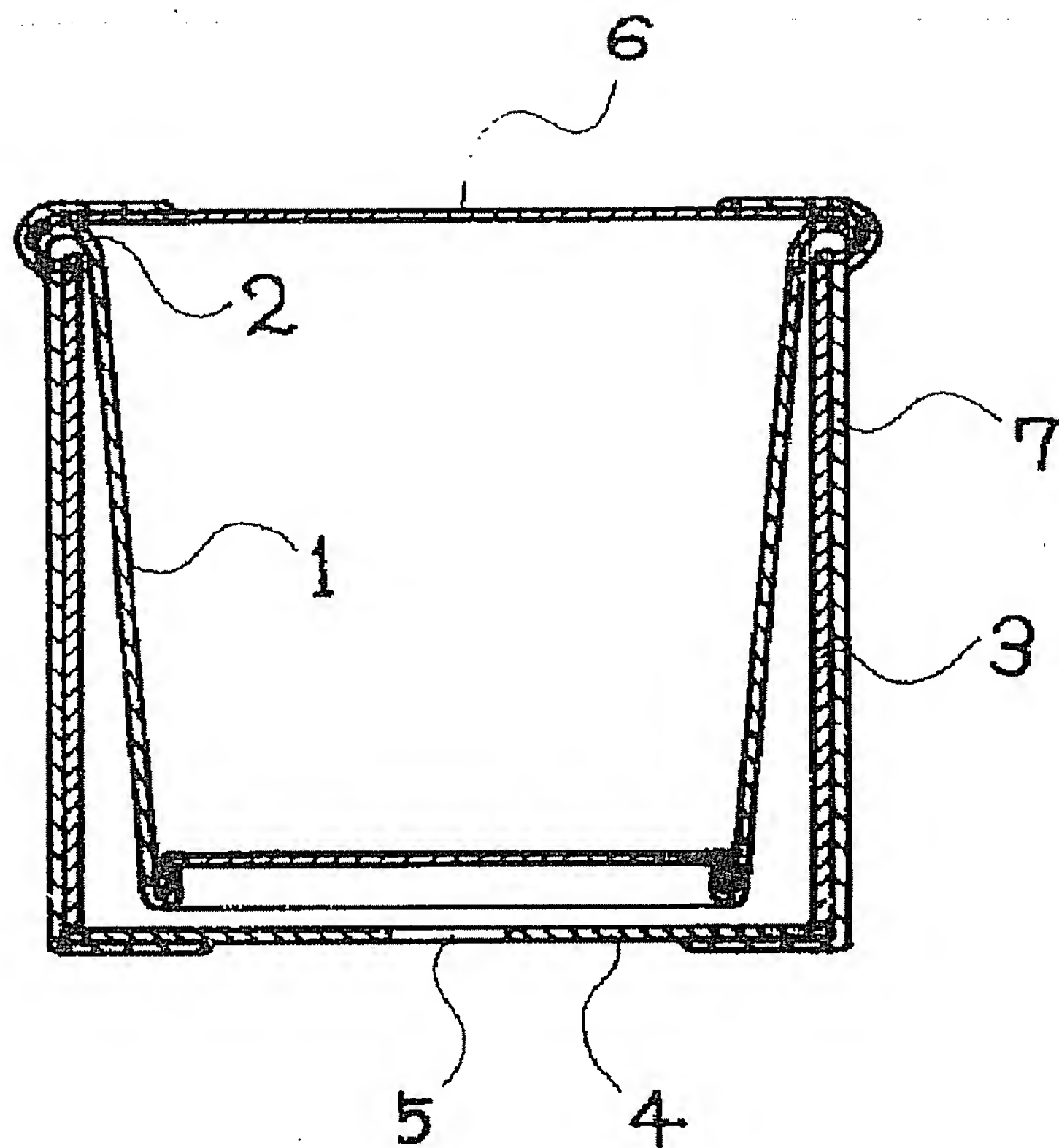
- (1) 容器本体 (2) ... 周曲部 (3) ... 紙管
(4) 底板 (5) 通気孔 (6) 蓋
(7) 熱収縮性フィルム (8) つまみ
(9) 印刷図柄

実用新案登録出願人

凸版印刷株式会社

代表者 澤村 嘉一

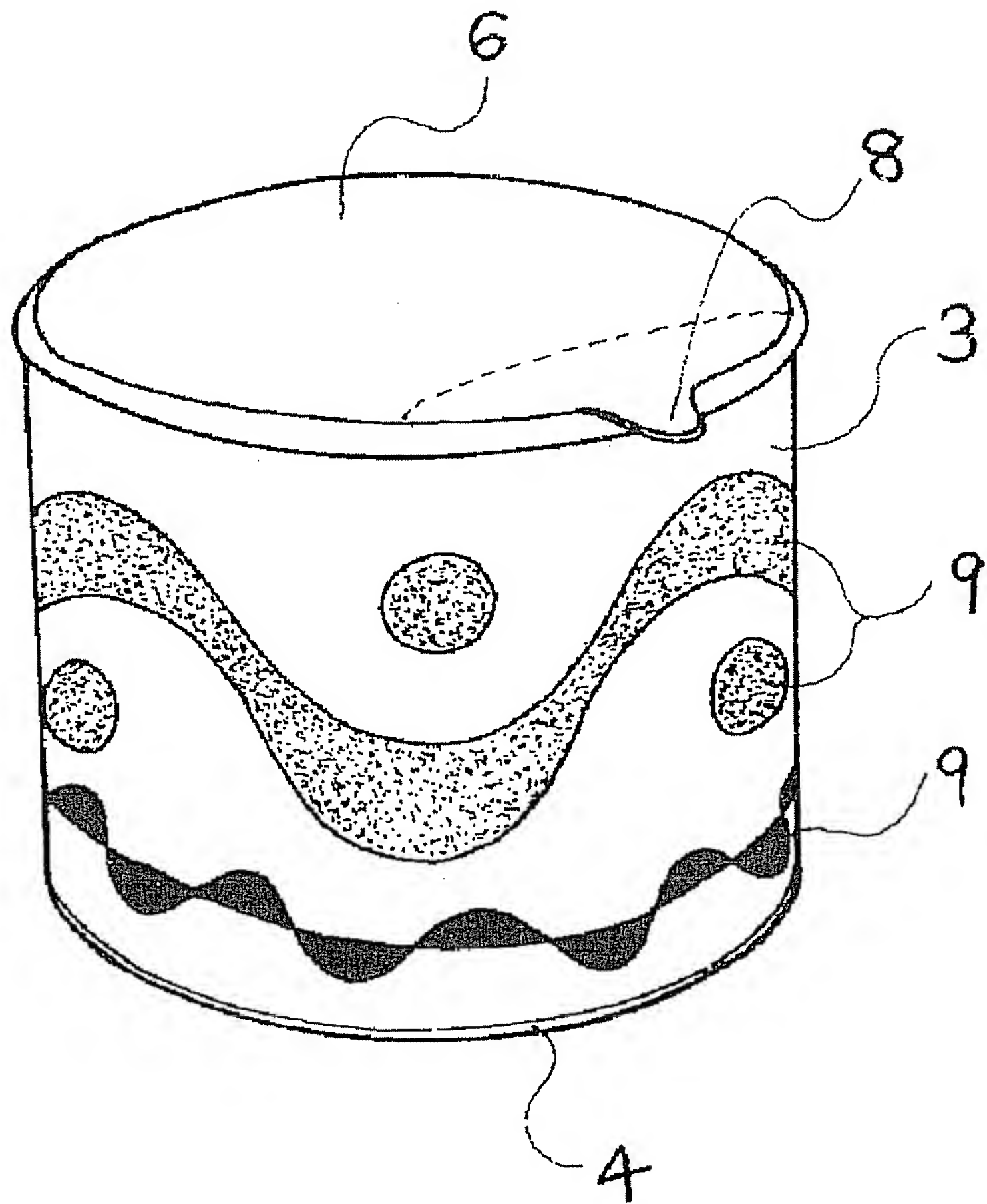
第 1 図



實用新案登録出願人
凸版印刷株式會社
代表者 澤村嘉一

136602 1/2

第2図



実用新案登録出願人
凸版印刷株式会社
代表者 澤村 嘉一

136602 2/2